

～令和 8 年熊本地震に際して～ 派遣期間 令和 8 年 8 月 15 日～8 月 20 日

DPAT インストラクター 看護師 波多野 幹弘

DPAT インストラクターは、災害が起きたときに被災された方の「こころのケア」を行う DPAT（災害派遣精神医療チーム）が適切に活動できるよう、普段から研修や訓練を行い人材の育成を支援する役割を担っています。



災害時には、被災地の状況や必要な支援について情報を集め、関係機関と連携しながら DPAT の活動を支えることも重要な役割です。

また、災害に備えた訓練の企画や運営を支援し、医療機関や行政などが連携して支援できる体制づくりにも取り組んでいます。

ー DPAT インストラクターとして現地活動に携わって ー

今回、愛知県 DPAT 第 1 班の一員として、熊本地震の被災地支援に携わりました。今回の活動では、DPAT 調整本部と宇城指揮所の両方で活動する機会があり、DPAT インストラクターとして、現場で活動する隊員を支えながら、情報を整理し、関係機関との調整や活動の引継ぎを行う役割を担いました。



災害発生から約 3 週間が経過した時期でしたが、被災された方だけでなく、地域の医療や保健活動を支えてきた支援者にも疲労が蓄積していました。初動期の緊急対応から、地域で継続して支援していく段階へ移行する中で、被災者への支援と同時に、支援者を支えることの重要性を強く感じました。

DPAT 調整本部での活動

熊本県庁の DPAT 調整本部では、各 DPAT の活動状況や現地のニーズを把握しながら、支援チームの活動方針や役割分担、関係機関との連携、今後の地域への引継ぎについて調整が行われていました。



私は DPAT インストラクターとして、現場から上がってくる情報を整理し、チーム内で共有するとともに、活動全体を見渡しなが、隊員がそれぞれの専門性を発揮できるよう支援しました。

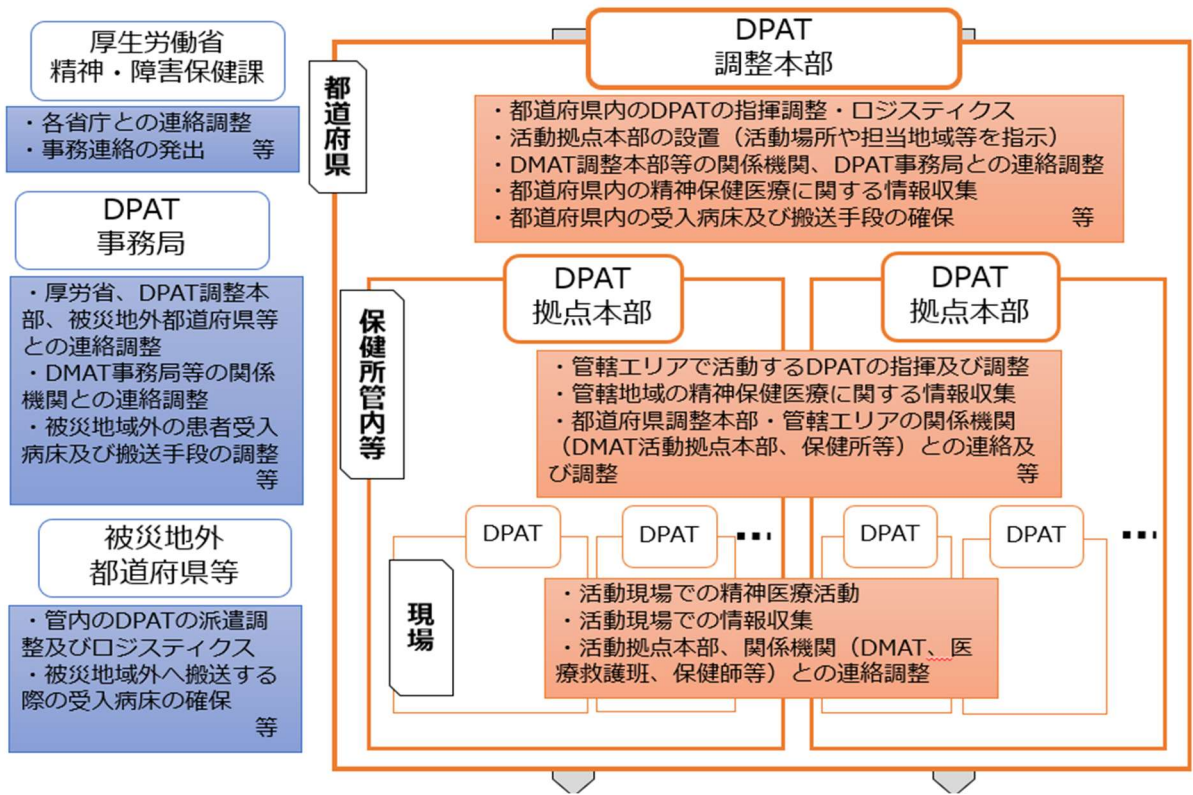
また、災害支援では、その場で対応して終わりではなく、支援終了後に地域で継続して支援できるようにつなぐことも重要です。今回の活動でも、ケースの情報を整理し、今後の対応を見据えた引継ぎを意識して活動しました。

※DPAT 調整本部

災害が起きたとき、被災した方々のこころのケアを行う DPAT が、必要な場所で活動できるように全体の調整をする拠点です。被災地域の状況や支援の必要性を把握し、DPAT の派遣、活動調整を行い、地域の医療機関や関係機関と連携して、こころの支援を進めます。



広域災害時のDPATの指揮系統例と役割



宇城指揮所での活動

宇城指揮所では、避難所等の精神医療ニーズの把握、他の支援チームや行政との連携、地域の精神科医療機関の動向把握などを行いました。

その中で、診察が必要となったケースにも対応しました。DPAT インストラクターとして、診察に必要な情報を整理して医師を含むチームに共有し、診察後の対応についてチームで検討するとともに、行政や地域の支援者との調整を行いました。

1 件目は、独居で歩行が困難な高齢女性のケースでした。エアコンを使用せず、食事もとらない状況にあり、受診や入院も拒否されていました。愛知 DPAT と徳島 DPAT で自宅を訪問し、同行した医師が診察を行いました。本人の状況を確認し、不安に寄り添いながら、精神面だけではなく身体面も含めた支援の必要性についてチームで検討しました。その結果、市の保健師からかかりつけ医へ相談することとなり、地域での支援につなげました。



2 件目は、妄想がみられた 60 歳代男性のケースでした。美里市保健師から相談があり、愛知 DPAT で対応しました。本人は穏やかではあったものの妄想が顕著で、精神科での治療を希望していませんでした。同行した医師が診察を行い、私はこれまでの経過や関係者からの情報を整理し、診察後の対応についてチームで検討しました。その結果、警察との対応も含めて今後の見守りについて調整し、地域では役場が経過を見守り、緊急性が生じた場合には夜間救急で対応することとなりました。



支援者支援も DPAT の大切な役割

今回、現地の総合病院では、スタッフの疲弊がみられ、支援者支援の依頼もありました。

災害時の「支援者支援」というと、ストレスチェックや心理的な評価をイメージしがちですが、今回の活動を通して、まず話を聴くことそのものが支援になることを実感しました。

災害後は、普段であればできている判断が難しくなったり、自分たちの対応が適切なのか迷ったりすることがあります。そのような時に、地域の支援者が抱えている思いや困りごとを聴き、一緒に状況を整理することも DPAT の重要な役割だと感じました。

現地の保健師からも、災害後は普段とは異なる状況のため判断が難しく、県外の日本 DPAT に相談したところ、丁寧に話を聴いてもらい、今後の対応と一緒に考えることができたことで、支援する側としても支えてもらえたという声がありました。

被災された方への支援だけでなく、その方々を支える地域の保健師や医療従事者など、支援者自身を支えることも DPAT の重要な役割です。そして、その支援を現場で継続できるよう、チームを支え、必要な情報を整理し、関係機関につないでいくことが、DPAT インストラクターとしての重要な役割の一つだと感じました。

※支援者

災害時には、被災した方を支える医療従事者や行政職員なども、心身に大きな負担を抱えます。DPAT は、支援者の声にも耳を傾け、心身の状態を確認しながら必要な支援につなげます。支援する人を支えることも DPAT の大切な役割です。

※日本DPAT

災害時に被災地へ駆けつけ、被災された方や支援者の「こころ」と「精神科医療」を支える専門チームです。

今回の経験をこれからの活動へ

今回、DPAT 調整本部と宇城指揮所での活動を経験し、DPAT インストラクターは、現場で直接支援を行うだけでなく、チーム全体を見渡し、隊員を支え、情報と人をつなぎ、活動を次の支援につなげていく役割が重要であると改めて感じました。

また、今回得た経験を現地で終わらせるのではなく、平時の研修や訓練にもつなげていくことが重要だと考えています。

今後も DPAT インストラクターとして、災害時に隊員が安心して活動できるチームづくり

と、地域の支援者を含めた継続的な支援体制の構築に取り組み、今回の経験を今後の災害対応や人材育成に活かしていきたいと思います。